

Curriculum Lab News

カリキュラムラボニュース

December 2009 Vol. 3

2009年12月第3号

カリキュラムラボニュース：

第3号の主な内容は、中国語指導に関する学会発表、小学部の子も達の取り組みの一例、教師研修評価の結果および保護者のみなさまへのお願いです。

学会『第二外国語としての

中国語指導について』

11月28日(日)に開催された第一回学会『第二外国語としての中国語指導について』には、日本、中国、韓国、シンガポール、ベトナムを代表する中国語指導における研究をしておられる大学教授や準教授の方々が多数発表されました。その中で、当学園中国語カリキュラムコーディネーターの崔真玉先生の発表にはたくさんの反響をいただきました。例えば、2002年より、中国語を第二外国語として学習指導するにおいて、『三字経』を取り入れることが提案されていますが、今回関西国際学園で取り入れていることを発表させていただいたところ、現場の声として世界初の発表であるとのことでした。そのような功績を認めていただき、シンガポールで開発されたiFlashbookという電子教科書を1年間是非無料で小学生を対象に使用してほしいと言って頂きました。

日本での中国語指導をより充実させるために、各国の大学でも教授法や教材の研究が日々続けられています。関西国際学園で行われている中国語指導およびカリキュラムは来年

の学会での発表も依頼されています。

*学会発表の概要は次ページに掲載しています。



絵本のススメ

映画化もされた絵本のお勧めです。

“Where the Wild Things Are” (怪獣たちのいるところ)は、必ずといって良いほど、海外では誰もが子どものときに遭遇している本です。絵本自体に簡潔な単語が使用され、全体的に文字は少ないため、幼い子ども達でもお話のイメージがつかみやすく、内容を簡単に覚えてしまう子どもも少なくありません。挿絵はダイナミックで、子ども達の経験と想像の世界が混在されており、1963年に出版されてから、人気は衰えることはありません。一緒に読むときは、鍵となる単語をお子様の年齢に応じて一緒に読むようにしてあげてください。また、絵を見ながらお子様に話を教えてもらってみても楽しいでしょう。一緒に絵本を楽しむときは、言葉を正しく使用することが目的ではなく、順序だてて話そうとすることや想像力を育ててあげてください。



子どもの中国語選択科目授業について

—関西国際学園の中国語授業

崔 真玉



子どもたちへの中国語教育が世界中で推進されることにより、近年日本でも幼児や児童の中国語教育が注目されています。幼稚園または小学校から、中国語授業を導入している学校も増えてきました。関西国際学園もその中の一つであり、7年前から中国語授業を開講しています。

しかし、中国語授業は選択科目であるため、習得レベルの違う子ども達が、同じ授業を選択することもあります。その結果、中国語講師が子どものレベルに合わせて授業を行うことは簡単なことではなく、この問題を解決するため関西国際学園では次のような教授法を取っています。

1. 各学期の始めの習熟度のレベルチェック（レベルチェックにはヒヤリング、読み書き、会話について初級、中級、上級の三段階にわけて行っている）
2. 月別のカリキュラムの作成と実施（毎月テーマに沿ったカリキュラムの作成、カリキュラムの内容は初級、中級、上級のレベルに分けてある）
3. 子どもの習熟レベルに対応した授業内容（初級レベルの子供と上級レベルの子どもが同じ授業を選んだ場合、初級レベルの内容に中級、上級レベルの内容をいくつか入れて行っている）
4. 毎月の習熟度のチェック（レベルチェックにはヒヤリング、読み書き、会話について初級、中級、上級の三段階に分けて行っている。それぞれの子供達の習熟度の結果をもとに、翌月は習熟が低い要素を重点的に教えている）

本校ではこのような教授方法でレベルの違う子ども達でも楽しく、積極的に参加できる授業を行っています。

特集：小学部国語科

～KISタウンワークスクラス発表会の実施～

さる11月26日（木）に、サンクスギビングと時を同じくして、小学部3年生以上ではKISタウンワークスのクラス発表会を行いました。

KISタウンワークスとは、児童が、与えられた課題からより詳しく調べていくテーマを選定し、1学期間をかけてテーマについて調べ、最終的にクラスメイトや保護者の方々の前で、調べた成果をまとめて発表する一連の学習のことで、テーマ学習は、校外学習や外部から講師の方にお越しいただいて実施する出前授業などと関連させるなどし、ただ本の中から情報を探るだけでなく生きた体験ができるよう工夫しています。6年生になると、その出前授業なども自分たちでアレンジする機会も与えられます。

2学期の各学年の課題は、6年生：職業、5年生：国、3年生：昆虫です。その課題の中から、自分がさらに詳しく調べていきたいテーマを選定し調べていくわけです。初めは、何から調べればいいのかわからなかったり、インターネットなどで調べると難しすぎたり、ただ文章を写すだけになってしまったりとなかなか大変な作業を繰り返しました。その都度、講師が助言をしたりご家庭の方にもご協力いただき仕上げていきました。

発表も、自分の調べたことをすべて話すと膨大な量になってしまいます。何をどのように発表すれば効果的に伝わるのかを考えなくてはなりません。発表時の資料作りにも工夫が必要です。これまで数回の発表を経ている5年生、6年生は様々な工夫を凝らしています。発表資料を分かりやすく大きく書く、効果的な色使いをする、

日めくり形式にする、立体的にする、発表時にクイズを入れる、BGMを流すなどなど講師も驚くような仕掛けが随所に見られました。発表の様子も堂々としたものです。

まだKISタウンワークスに参加していない1、2年生もお兄さん、お姉さんの発表を見学し、将来の自分たちのタウンワークスの参考にしていきます。

3学期も新たな課題に取り組み、学年末には全校の学習発表会で全校生徒、保護者の方々の前で発表する予定です。



保護者の皆様へ

教師にご協力を頂けることは、お子様をより理解させて頂き、お子様にとって最善の対応をさせて頂けることであると信じています。子ども達が準備万端でいられるこ

とを手助けして頂けることは、教師への最大のご協力となる事の一つであり、それが子ども達への学習効果へと反映します。いつも皆様のご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。

ELC教師より

・担任にお気軽にお声をかけてください。直接でも連絡帳に記入頂いてもかまいません。少しでもお子様の情報をいただける事で、担任はお子様のご家族のことを理解して保育をさせて頂くことができます。例えば、前日ご家族でお出かけをし、夜遅くなったり、疲れているようであると一言お知らせ頂ければ、園生活でも普段とは違う様子を見てあげることができます。

・行事、パーティーや保護者懇談に参加してください。子ども達だけではなく、保護者の皆様にも楽しんで頂けること間違いなしです！イベントにご参加頂くことが、お子様のことをより深く理解した上で、サポートさせて頂けることとなります。

・英語力は気になさらないで下さい。外国人担任が日本語が分からなくてもご安心下さい。K I Aにはたくさんのバイリンガルスタッフがおりますので、いつでもお気軽に通訳をさせて頂きます。

・ベビーサインと一緒に学んでみてください。ベビーサインを使って日本語で話しかけて頂いてもよいです。ベビーサインが発語前のお子様との絆をより深められるだけではなく、園で使用する言語と家庭で使用する言語の架け橋となるでしょう。

・お子様が食べることにあまり興味が無い場合は、絶対に食べるものを何か少しもたせてあげてください。もちろんお子様にはお弁当や給食など、用意された食事を食べるよう促しますのでまずはご相談ください。しかし、その日の機嫌やまだ園に慣れていなかったりする状況など、全く何も口にしないようなことがある場合は、何か別途ご用意頂くようお願いさせて頂きます。食べることで午後からのアクティビティにも元気に取り組んでくれるはずですよ。

K教師より

夜きちんと睡眠をとってください。睡眠不足の子ども達は集中力に欠けてしまい、学習やアクティビティに力が入りません。そして、機会を逃してしまうと、学習の習得にも遅れてしまうことへも影響を及ぼす事もあります。

朝食をきちんと食べてください。能や体にエネルギーが満ち溢れ、しっかりとした朝食をとった子ども達は、とっていない子ども達よりも学習力がつき、活発に行動できるといわれています。

お子様のスケジュールを把握して下さい。そうすることで、登園するときには、子ども達は一日の生活を準備万端の姿勢から始めることができます。ランチセットや水筒を忘れていないかなど一緒に確認頂いたり、特別な行事が行われるかなどは一緒に確認下さい。お子様一人だけが、あるべきものを持っていないという状況などでは、お子様だけが参加できないアクティビティがある状況にもなります。最善のレッスンをいつでも受ける姿勢を持ってもらえるようご協力をお願いします。

遅刻をしないでください。遅刻をすることはレッスンを中断せざるを得ないことにもなりかねません。クラスメイトに不必要な影響を与えるだけではなく、お子様自身が、遅れている間に学べることも学べなくなってしまうのです。



G教師より

小学部の教師にご協力頂けることは、子ども達が用意周到で登園してくれることです。宿題を終え、ロッカーの整理整頓し、忘れ物がないかなどと一緒に、または間接的に確認することを促して頂くことが、授業を受けるよい姿勢を育む事へと繋がります。

国語科と英語科で共有している連絡帳を必ず毎日ご確認下さい。記載されている宿題が終わっているのか、またきちんと取り組んだのかお子様に尋ねて下さい。確認のため、見せてもらうこともして頂いて下さい。また家に持ち帰った完成した課題なども、見せてもらうようお願いして下さい。お子様が常にベストを尽くして取り組んでいるか、一緒に見守って頂きたいと思えます。

ロッカーの整理整頓やカバンの入れ方なども助けが要る場合は指示を与えてあげて下さい。持ち物の管理がより上手にできたり、紙をきちんと折って入れたり、ファイルに入れるなども大切なスキルです。大きなポスターなどは丸めたり、上手に片付けられる方法を導いてあげて下さい。どこに何があるかすぐに分かる状況や環境は、子ども達の生活をスムーズに進め、課題をきちんと保管する事ができるように促します。

園で必要なものがそろっているかご確認下さい。色鉛筆、筆箱、鉛筆、消しゴム、スタンプブック、連絡帳はとても重要な持ち物です。このような基本となる持ち物を損失した場合は、一緒に探したり、新しいものを用意してあげて下さい。お子様が何を必要としているか、確認が必要な場合は、マネージャーや主任までお気軽にご相談下さい。

教師評価・教師研修

スタッフ研修～授業見学～

小学部



11月上旬に小学部国語科および英語科では研究授業を行いました。指導案に基づいて実施する授業を他の講師が見学し、すべての講師の授業実施後は検討会を行いました。その日は、同時にビデオ撮影も行ったため、クラスによっては子どもたちが極度に緊張するなど、普段と違う一面を見せる子ども達を相手に、授業をする講師のほうも緊張の40分でした。検討会ではそれぞれの授業についての反省点を忌憚なく話し合いました。それぞれの講師にとっての今後の課題が明確になったのではないかと思います。今後も、より分かりやすく楽しめる授業づくりを目指して、この取り組みを継続していきます。

幼稚園部



11月中旬に幼稚園部教師評価を行いました。KカリキュラムコーディネーターのChristopher Butlerと福田裕子が各校を訪れ、授業見学および子どもの成長記録やレッスンプランなどをチェックしました。その後、評価表をもって学園長に報告をし、教師と個別面談をし、改善点やよかった点について話し合います。カリキュラムに沿ってレッスンを行っているか、子ども達のニーズにあった対応ができているかなどを確認します。各校各学年クラスによって特色はあるものの、会話、生活習慣、社交性、読み書きなど子ども達も張り切って日頃先生と取り組んでいるものを見せてくれました。教師が日々学ぶ姿勢を持って、子ども達と向き合うことにより、教育の質をさらに上げることができるという思いで今後も指導にあたって参ります。

国語科



小学部だけではなく、各キャンパス、ELC、K部門でも11月は授業見学を行いました。東大阪校国語科本部から講師が訪問して授業見学をしたり、校内実施をしたりと形態はさまざまですが、こちらも授業を実施する講師は緊張の一瞬です。しかし、どの講師もにこやかに元気よく楽しく授業を展開していました。授業後の反省会では、授業のフィードバックばかりではなく、日頃から気になっていることについて止まることなく話し合いが続きました。根底には、受け持たせていただいているお子さん一人残らずより伸ばしてあげたいという、講師の熱い気持ちがあります。見学をさせていただいた講師も、各講師の純粋な熱い思いに触れ、心洗われる思いでした。今後も、各キャンパス協力し情報交換をしながら講師同士、切磋琢磨していきたいと思えます。

***今後の予定：1月にはELC講師評価および保育担当者評価が行われます。**

中国語教師より

中国語を選んだ保護者の方から、「どうすれば、中国語が上手になりますか?」、「どうすれば、中国語が好きになりますか?」などの質問をよく伺います。

このような質問をして頂く保護者の皆様のお気持ちに共感すると同時に、そのお気持ちは子ども達の学習に確実に反映します。中国語の学習を選んだのは保護者の方、というケースが多いかもしれませんが、中国語を習うのはお子様です。まず、子ども達自身が、中国又は中国語に、興味を持つことが一番大事なことだと思います。もちろん、中国語に興味を持ってもらうのは、中国語講師の力量によるところです。しかし、子ども達に中国に興味を持ってもらうことは、保護者皆様のご協力も多大な影響をもたらしてくれるでしょう。例えば、パンダが好きなお子様には、一緒にパンダの故郷について調べたり、電車が好きなお子様には、中国の電車と鉄道について調べたりしながら、何か一つのきっかけを作って頂けることが大事なことです。中国や中国語に興味を持ってもらえることは学習の継続へと繋がります。特に言語学習において、『継続は力なり』。継続する気持ちを一緒に育んでいきたいと思えます。

What's New in Curriculum

Kカリキュラムについて

<D I B E L Sテスト>

幼稚園部K2とK3では言語学習の確認テストを行いました。これまでも定期的に、それぞれの子ども達の読み書きの進捗の確認テストは行っていますが、さらに読み書きの基礎となる言葉やアルファベットについて、そして言語の理解度についての米国で行われている口頭試問を実施しました。このテストの結果は、今後の個人レベルおよび幼稚園部全体での課題や目標を立てることに役立っています。

<K E S Lの導入>

幼稚園部に新たにE S L要素を含んだレッスンをカリキュラムに組み込みました。これまでも言語学習の時間だけではなく、算数やテーマ学習にそって“英語”は常に使って習得していますが、今後集中的に語彙を増やすことや文法に注目するレッスン時間を設けます。毎月、各週毎に文法、語彙、発音、リスニングを重点的に指導する30分のアクティビティをこれまでの言語学習の時間に取り入れていきます。

Tell Us About your Country! 外国人の先生に聞いてみよう!

Q: 日本に住んでいて『難しいなあ』と感じる時は?

A: 医者にかかることの難しさ

専門用語がわからない、医療システムが異なるなど、体調が悪くてもかかりたくないと思ってしまう。言葉の壁だけではなく、文化の違いを感じる時です。病気に対する認識も異なります。

A: コミュニケーションの回り方が違う

お互いの文化を理解しようとし、歩み寄ることが大切だと日々実感します。習慣、マナーやしつけなども違います。食べ物の入ったお皿を床に置いてはいけないなども思わず、初めは戸惑う事も多々ありました。

